

# 大学入学段階の基礎力に影響する 中学・高校時代の経験

いま大学入学後の不適応や中途離学・退学者が増えています。

こうした状況は、将来の雇用や所得への影響も指摘されるなど、社会的な課題になっています。

この調査では、現役大学生へのアンケートを実施。

将来、一人ひとりが社会人として活躍していくためにも、充実した大学生活を送るうえで必要な力は何か。

それは高校までのどんな経験から身につけられるのか、大学初年次の基礎力につながる、中学・高校でのいい経験を調査しました。

# はじめに。この調査の目的について

## 調査の背景

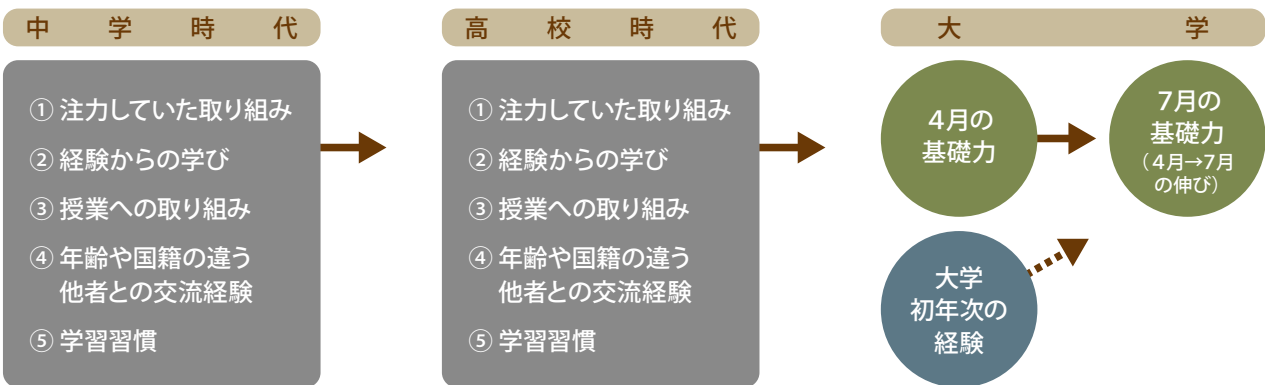
大学の中途離学者・転学者が近年増加していることを調べるうちに、高校時代の対人スキルが大学での適応に影響していることがわかってきました。そこで、今回の調査では、対人スキルを含む基礎力に影響する高校までの経験を探索的に検討することとしました。

## 調査概要

- 対象者 ▶ 大学1年生（首都圏・関西圏の4校：国立大学（1校）と中堅私立大学（3校））
- サンプル数 ▶ 302
- 調査時期 ▶ 第1回（4月）、第2回（7月）
- 調査分析 ▶ 辰巳哲子（リクルートワークス研究所 主任研究員）  
田窪正則（ヒストリカルデザイン株式会社）

## 調査項目

中学・高校でのどのような経験が、大学初年次の基礎力に影響を与えるのかを調査するため、①「注力していた取り組み」 ②「経験からの学び」 ③「授業への取り組み」 ④「年齢や国籍の違う他者との交流経験」 ⑤「学習習慣」の5つの観点から、調査票を作成しています。（※詳細は13p）



## 基礎力とは

「対人基礎力」「対課題基礎力」「対自己基礎力」の3つを中心に、「処理力」「思考力」を加えた5つの力。この基礎力は、どんな仕事をするうえでも必要となる能力で、小学校・中学校・高校・大学と、その段階ごとに獲得することが望まれています。本報告書では、「対人基礎力」「対課題基礎力」「対自己基礎力」の3つの基礎力を取り上げます。

### 対人基礎力

- 親和力** 円満な人間関係を築く
- 協働力** 協力的に仕事を進める
- 統率力** 場をよみ、目標に向かって組織を動かす

### 対課題基礎力

- 課題発見力** 問題の所在を明らかにし、必要な情報分析を行う
- 計画立案力** 課題解決のために効果的な計画を立てる
- 実践力**※ 効果的な計画に沿った実践行動をとる

### 対自己基礎力

- 感情制御力**※ 仕事場面で気持ちの揺れをコントロールする
- 自信創出力** ポジティブな考え方やモチベーションを維持する
- 行動持続力**※ 主体的に動き、良い行動を習慣づける

※の力は、今回は取り上げていません

# 大学1年生のいま

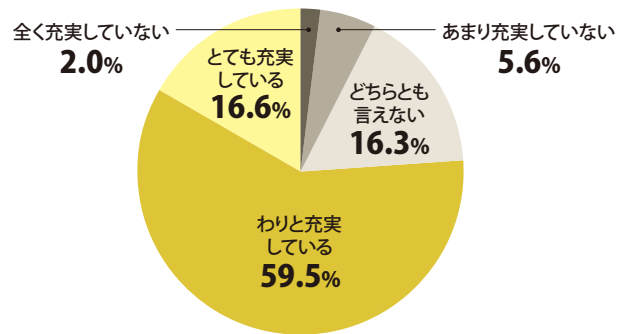
大学生活への適応・充実度と基礎力にはどのような関連があるのでしょうか。  
入学直後の4月と、大学生活に慣れてきた7月の2回にわけて  
現役の大学1年生に調査しました。  
そこからみえてきたのは、  
大学入学段階での「対人基礎力」の大切さでした。



# 大学1年生は、大学生活をどう感じているのか

7月段階での大学生活の充実度について5段階で評価してもらったところ、とても充実している、わりと充実していると答えた人が76.1%と大部分を占め、おおむね満足を感じているようです。一方で、全く充実していない、あまり充実していない、どちらとも言えないと答えた人たちも、約1/4(23.9%)存在しています。4月段階と7月段階でこの割合に大きな変化はみられませんでした。

大学生活の充実度（7月）

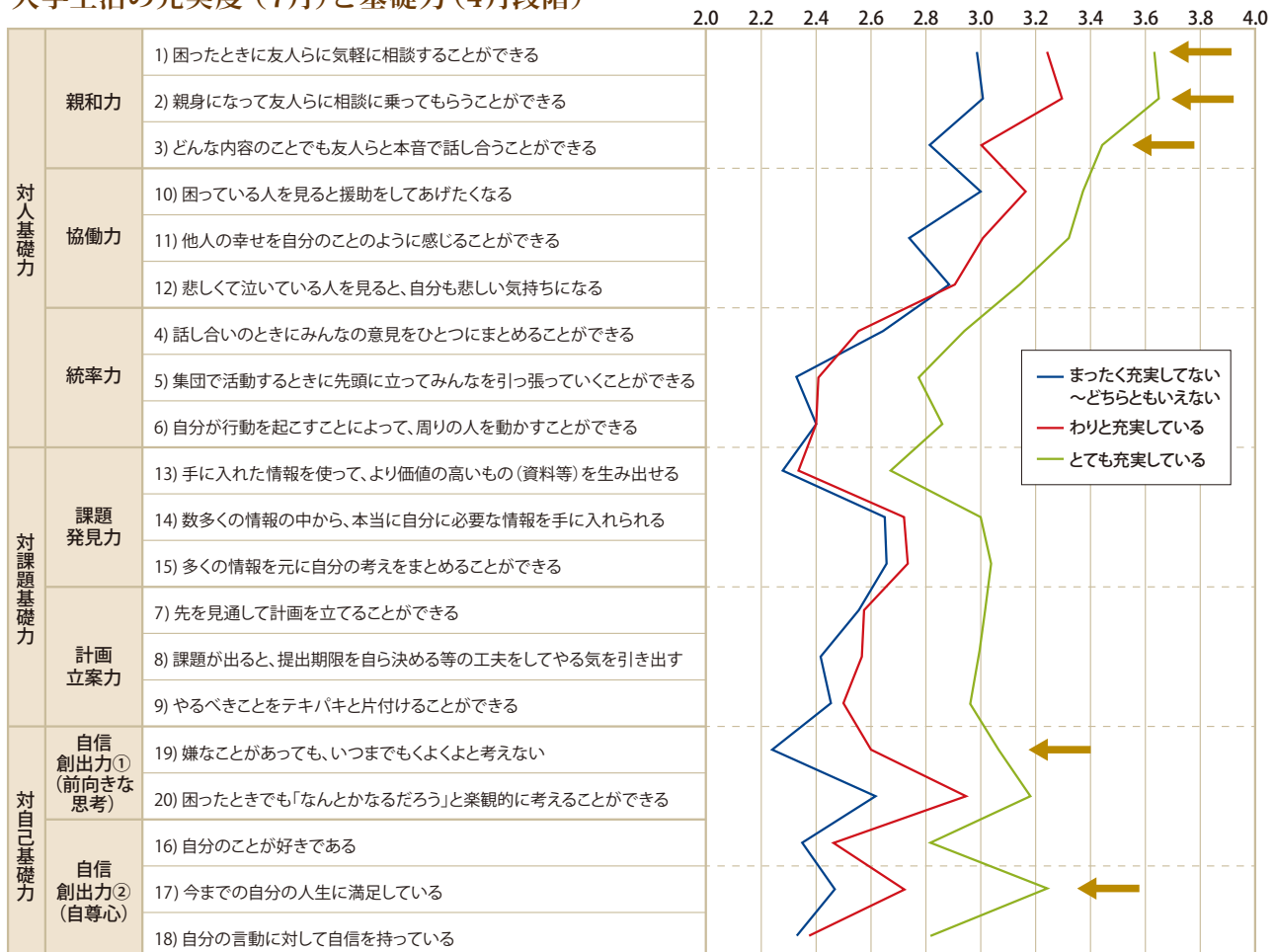


## 大学生活の充実度と基礎力には、どんな関係があるのでしょうか

大学充実度を3群に分け（とても充実＝高、わりと充実＝中、それ以外＝低）比較してみました。7月段階で「とても充実している（充実度高）」「わりと充実している（充実度中）」と回答している学生は、4月段階での基礎力が全体的に高く、基礎力項目20項目のうち、「話し合いのときにみんなの意見をひとつにまとめることができる」を除くほとんどの項目で、統計的に有意に高くなっていることがわかります。充実度の高い学生と、低い学生とのあいだで大きな開きがあったのは、対人基礎力（親和力・協働力・統率力）と對自己基礎力（自信創出力（前向きな思考、自尊心））でした。

※下図の数値は基礎力の平均値。←の項目は、充実度が高いと答えた学生と低いと答えた学生とのあいだで、0.6ポイント以上の開きがあったもの

大学生活の充実度（7月）と基礎力（4月段階）



# 大学初年次の基礎力につながる 中学校・高校時代のいい経験

大学入学前の経験は、入学後にどのように  
活かされているのでしょうか—

中学・高校での経験と大学入学後の基礎力の関係を探るため、  
「注力していた取り組み」「経験からの学び」「授業への取り組み」  
「年齢や国籍の違う他者との交流経験」「学習習慣」  
について調査を行いました。



公立高校の先生へのインタビューを通じて、学校での実践例を伺いました。  
インタビューにご協力をいただきました先生方に御礼申し上げます。

# いい経験をめぐる7つの考察

今回の調査では、「入学段階（4月）での基礎力を決定づける中学・高校での経験」と「入学後（4月から7月まで）の基礎力の伸びに影響を与える中学・高校の経験」のふたつの視点から7つの分析を行いました。

4月の基礎力

## 4月の基礎力を決定づける中学・高校の経験

01

【中学・高校】注力していた取り組み

部活動経験・就業体験は自信に。  
高校時代のリーダー経験は多くの基礎力に影響する

02

【中学・高校】経験からの学び

チームの学びが対人基礎力に。  
考える力・やり抜く習慣の獲得は、対課題基礎力に影響する

03

【高校】授業への取り組み

「授業中に進んで発表した経験」は、  
親和力・統率力・課題発見力・計画立案力・自信創出力に影響する

04

【中学・高校】年齢や国籍の違う他者との交流経験

年齢の離れた人たちとの交流経験は、  
統率力と課題発見力に影響する

05

【高校】学習習慣

高校時代の「学習習慣」は、  
大学入学後の自主学習行動と計画立案力に影響する

7月の基礎力の伸び

## 4月から7月までの基礎力の伸びに影響する中学・高校の経験

06

【中学・高校】注力していた取り組み

入学後3ヵ月間の「統率力の伸び」には、  
学校行事や部活動経験、社会人との交流・留学が有効

07

【中学・高校】経験からの学び

相手の気持ちを察したり、衝突を解決したりした  
「経験からの学び」は、協働力の伸びに影響する

# 01

## 4月の基礎力×注力していた取り組み

### 部活動経験・就業体験は自信に。 高校時代のリーダー経験は多くの基礎力に影響する

「教科の学習」「部活動」「学校行事」などの中から、「特に力を入れた取り組み」を尋ね、大学入学時の基礎力への影響を探索しました。中学時代の取り組みで影響が見られたのは「友人との交流」「部活動」「恋愛経験」です。「友人との交流」は親和力に、「部活動」や「恋愛」は自信創出力に影響しています。さらに、高校時代の「リーダー経験」は、入学時点の基礎力に最も大きな影響があり、親和力・協働力・統率力・課題発見力・自信創出力(自尊心)と基礎力全般との関連が示されました。また、「インターンシップなどの就業経験」は、自信創出力(自尊心)に影響しています。中学・高校では、大学とは違い、同じクラス・同じ学年といった限られた人間関係の中で生活をしています。気軽に人間関係を「取り替える」ことができない環境の中で“仲間と向き合うこと”、特にリーダー経験を積むことは、その後の大学生活への適応に寄与しているといえます。

【中学】部活動・恋愛・友人との交流 → 親和力・自信創出力

【高校】学校行事・リーダー経験・就業体験・大学受験 → 親和力・協働力・統率力・課題発見力・計画立案力・自信創出力

#### 大学入学時点の基礎力に影響する、中学・高校時代に注力したこと

		対人基礎力			対課題基礎力		對自己基礎力		
		親和力	協働力	統率力	課題発見力	計画立案力	自信創出力① (前向きな思考)	自信創出力② (自尊心)	
属性	モデルの分散分析の有意性	○	○	○	○	○	○	○	
	性別								
	住居		+					+	
	入試形態	AO入試(一般入試基準)			+				
		指定校推薦(一般入試基準)					+		
		公募推薦(一般入試基準)			+				
		その他(一般入試基準)		+			+		
	(大学の志望順位)							-	
	高校種別			+					
	中学成績	上・やや上のほう(真ん中基準)			+	+	+	+	+
下・やや下のほう(真ん中基準)		+						+	
中学注力した取り組み	1)教科の学習								
	2)文化祭や体育祭などの学校行事								
	3)部活動							+	
	4)リーダー経験								
	5)家の手伝い								
	6)恋愛経験							+	
	7)友人と遊びに行く	+							
	8)社会人との交流								
	9)職場体験								
	10)高校受験								
	11)留学・留学準備				-				
高校注力した取り組み	1)教科の学習								
	2)文化祭や体育祭などの学校行事			+					
	3)部活動								
	4)リーダー経験	+	+	+	+			+	
	5)アルバイト								
	6)恋愛経験								
	7)友人と遊びに行く								
	8)社会人との交流				-	-		-	
	9)インターンシップなどの就業体験							+	
	10)大学受験					+			
	11)留学・留学準備								

※表中の「+」は大学入学時のそれぞれの基礎力にポジティブな影響が、「-」はネガティブな影響が確認された項目

#### 大学1年生：[リーダー経験]

バスケットボール部で3年のとき副部長をしていました。練習もきつくて、部員数も多くて、そのなかで役割を遂行するのにすごく悩みました。顧問の先生とメンバーが思っていることが全然違うこともあったりして、そこをどうチーム一丸となって同じ方向を向いていくのかに一番時間を使いました。全員での話し合いだと意見を言わないこともあるので、個人、個人に話を聞いて、次は部長・副部長と先生で話をしたり。人が何を考えているのかを察する能力がないと、まとめていきようがないかなということを感じました。

#### 公立高校校長：[授業での発表経験]

昨年度から、総合的な学習の時間と国語を使いながら、全生徒が自分で考えた社会課題について、問いを立て、調べ、発表する場面を設けました。今日発表した生徒は、つい2週間前にも別の場所で発表したばかりですが、その時よりも発表がうまくなっていて驚きました。これまでの高校教育の中では、生徒たちが持っている能力を引き出す機会を、うまく作れていなかったのではないかと反省しています。

# 02

## 4月の基礎力×経験からの学び

### チームの学びが対人基礎力に。考える力・やりぬく習慣の獲得は、対課題基礎力に影響する

**同**じ経験をしていても、そこから何を学んだかは人それぞれ。部活動からチームワークを学んだ人もいれば、リーダーシップを獲得した人もいるでしょう。ここでは、どんな経験をしたかではなく、“経験から何を学んだか”について尋ね、回答を3つの因子に分類して（※14P参照）基礎力との関係を確認しています。中学時代に、“社会の出来事に関心を持つ”“将来やりたい仕事の分野やテーマの発見”などの「考える力」を学んだことは大学入学時の計画立案力に。“相手の気持ちを察する”“人との衝突を解決する”などの「人との関係」を学んだことは協働力への影響が見られました。さらに、中学よりも高校時代の学びが、大学入学時の基礎力により多くの影響を与えています。高校時代に、“既成の概念にとらわれず自分の頭で考える”“本質を捉える”などの「考える力」を得たことは統率力や課題発見力に。また、“相手の気持ちを察する”“衝突の解決”など「チームワークスキル」を得たことは対人基礎力に。“継続的に努力する習慣”など「やりぬく習慣」は計画立案力に影響しています。

【中学】考える力・人との関係 → 協働力・計画立案力

【高校】考える力・チームワークスキル・やりぬく習慣 → 親和力・協働力・統率力・課題発見力・計画立案力

#### 大学入学時点の基礎力に影響する、中学・高校時代の経験からの学び

		対人基礎力			対課題基礎力		対自己基礎力		
		親和力	協働力	統率力	課題発見力	計画立案力	自信創出力① (前向きな思考)	自信創出力② (自尊心)	
モデルの分散分析の有意性		○	○	○	○	○	○	○	
属性	性別		+	-					
	住居								
	入試形態	実家以外(実家基準)							
		AO入試(一般入試基準)							
		指定校推薦(一般入試基準)							
		公募推薦(一般入試基準)							+
	(大学の)志望順位	その他(一般入試基準)		+					
		第二希望(第一希望基準)							
	高校種別	その他(第一希望基準)							-
		男子校または女子校(共学基準)							
中学成績	中高一貫校(共学基準)			+	+				
	上・やや上のほう(真ん中基準)			+	+	+			
	下・やや下のほう(真ん中基準)								
中学 経験からの学び	第1因子 考える力					+			
	第2因子 チームワーク								
	第3因子 人との関係		+						
高校 経験からの学び	第1因子 考える力			+	+				
	第2因子 チームワークスキル	+	+	+					
	第3因子 やりぬく習慣					+			

※表中の「+」は大学入学時のそれぞれの基礎力にポジティブな影響が、「-」はネガティブな影響が確認された項目

4月の基礎力

#### 大学1年生：[部活動を通じたチームワークスキルの獲得]

高校時代に演劇部に所属していました。役職としては裏方の音響だったんですが、役者と演出家との兼ね合いもそうですし、曲を探しだして、本番では自分で音響機器も操作するという作業も伴ってくるので、根性がついたと思います。大会に向けて締め切りがあつて、いつまでに曲を決めて、操作する順番をシートにまとめてと決まっているので、期限を守るという意識も強くなりました。でもやっぱり、人との対立があるんです。脚本や演出の人と、この曲は合わないんじゃないのかと揉めたりして。そこでは、人と接する力もつきました。

#### 公立高校教員：[学校行事を通じたチームワークスキルの獲得]

合唱コンクールや体育祭など、高校ならではのチームビルディングの活動を活かしています。体育祭では、毎年抽選でチームを決め、チームカラーを決めて活動しています。負けると本気で悔しがります。負けた時には、なぜ負けたのか、みんなで考える時間をとり、次に勝つための方法を検討させています。今年も、5月の合唱コンクールでは最下位だった生徒らが、9月の体育祭では優勝しました。合唱コンクールから体育祭までの間に、全員でチームを立て直すプロセスを経験しています。



# 03

## 4月の基礎力×授業への取り組み

### 「授業中に進んで発表した経験」は、親和力・統率力・課題発見力・計画立案力・自信創出力に影響する

**高** 校生活の中で一番時間を費やしている授業時間。授業は、知識のインプットだけでなく、「自ら考える機会」「協働する機会」でもあります。ここでは授業中の態度・取り組み姿勢について4つの観点で尋ねました。その結果、「授業中に自ら進んで発表した」ことは、親和力・統率力・課題発見力・計画立案力・自信創出力への影響が見られ、大学入学時点の基礎力全般に影響していることがわかりました（※）。「授業中に自ら進んで発表した」ことは、主体性を測る要素の1つとして尋ねたものですが、主体性や学習意欲の低下は、近年、小学校教諭からも課題視されているテーマです。「もともと基礎力の高い人は主体性が高い」とみることでもできますが、授業に対する主体性と基礎力との関係が明らかになったことで、「授業の中で積極的な発言機会を設けること」の重要性も改めて示されたのではないのでしょうか。また授業の内容について話せる友達がいる環境であることは、自信創出力に影響しています。（※中学の成績を含む「属性」は分析結果に影響しないようコントロールされています）

**【高校】 授業中に進んで発表・授業後に友達と話す → 親和力・統率力・課題発見力・計画立案力・自信創出力**

#### 大学入学時点の基礎力に影響する、高校時代の授業への取り組み態度

		対人基礎力			対課題基礎力		對自己基礎力	
		親和力	協働力	統率力	課題発見力	計画立案力	自信創出力① (前向きな思考)	自信創出力② (自尊心)
モデルの分散分析の有意性		○	○	○	○	○	×	○
属性	性別	女性(男性基準)	+	+	-	-		
	住居	実家以外(実家基準)						
	入試形態	AO入試(一般入試基準)						
		指定校推薦(一般入試基準)						
		公募推薦(一般入試基準)		+	+			+
	(大学の)志望順位	その他(一般入試基準)		+				
		第二希望(第一希望基準)						-
	高校種別	男子校または女子校(共学基準)			+			
		中高一貫校(共学基準)			+	+		
	中学成績	上・やや上のほう(真ん中基準)			+	+	+	
下・やや下のほう(真ん中基準)								
高校授業への取り組み	1)授業中、自分から進んで発表した	+		+	+	+	+	
	2)授業をさぼった(R)							
	3)授業の課題をあまり一生懸命しなかった(R)					+		
	4)授業後、内容について友達と話した						+	

※表中の「+」は大学入学時のそれぞれの基礎力にポジティブな影響が、「-」はネガティブな影響が確認された項目

※(R)は反転して分析

4月の基礎力

#### 大学1年生：[授業での取り組み]

私の学校はディスカッションがとても盛んで、とくに歴史や政治経済の授業がそうでした。わからないことがあったら、「先生、これ何ですか」と質問しやすい雰囲気、生徒同士も「私、こういうこと知っているよ」とすぐ意見を出し合う環境でした。そのためか、私はわからないことがあると、反射的に「何だろう」と疑問を持つようにしています。例えば、テロが起こった時も、「何故、起こったんだろう」と疑問を持って調べたり。自分自身が疑問を持つことで、次の行動へのモチベーションがあがったと思います。

#### 公立高校教員：[授業での発表経験]

高1の段階で発表できなかった生徒が自分から発言するようになるには、内容の理解が進むことも大切なのですが、問題を「自分事」として捉える機会があること、発表経験を積み重ねながらスキルと小さな成功体験を持つことが必要なのだと思います。そのためには、「聞き手」との関係構築ができていて、つまり、安心して話せる人間関係ができてることが前提となります。大人でも同じですが、表現者としての場があると、学習者としての準備をします。教員は、場を作り、舞台を用意することが必要なのだと考えています。

# 04

## 4月の基礎力×年齢や国籍の違う他者との交流経験 年齢の離れた人たちとの交流経験は、 統率力と課題発見力に影響する

中学や高校での活動に、多様な国籍・年齢の人が参加する機会が増えています。こうした、多様な他者とのかかわりは、大学入学段階での基礎力に影響しているのでしょうか。今回の調査では、中学時代での外国人・年齢の離れた他者との交流経験の影響は見られませんでした。高校時代の「年齢の離れた友人・知人との交流経験」は、対人基礎力と対課題基礎力への影響が確認されました。高校時代になるとアイデンティティが確立し、多様な他者への受容も進みます。この時期に、同じ世代だけに閉じない多様な人々との交流機会を設けることは、大学での新しい人間関係への円滑な移行を促進する可能性があります。

**【高校】年齢の離れた友人・知人との交流 → 統率力・課題発見力**

大学入学時点の基礎力に影響する、中学・高校時代での年齢や国籍の違う他者とのかかわり

		対人基礎力			対課題基礎力		對自己基礎力	
		親和力	協働力	統率力	課題発見力	計画立案力	自信創出力① (前向きな思考)	自信創出力② (自尊心)
モデルの分散分析の有意性		○	○	○	○	○	○	○
属性	性別	女性(男性基準)	+	+	-	-	○	○
	住居	実家以外(実家基準)						
	入試形態	AO入試(一般入試基準)						
		指定校推薦(一般入試基準)					+	
		公募推薦(一般入試基準)		+	+			+
		その他(一般入試基準)		+				
	(大学の)志望順位	第二希望(第一希望基準)						
	その他(第一希望基準)	-						-
	高校種別	男子校または女子校(共学基準)						
	中学成績	中高一貫校(共学基準)			+	+		
上・やや上のほう(真ん中基準)				+	+	+		
	下・やや下のほう(真ん中基準)							
中学 年齢や国籍の違う 他者との交流経験	1)外国人との交流経験							
	2)年齢の離れた友人・知人との交流経験							
高校 年齢や国籍の違う 他者との交流経験	1)外国人との交流経験							
	2)年齢の離れた友人・知人との交流経験			+	+			

※表中の「+」は大学入学時のそれぞれの基礎力にポジティブな影響が、「-」はネガティブな影響が確認された項目

4月の基礎力

### 大学1年生：[アルバイトを通じた社会人との交流]

ドラッグストアでアルバイトをしていました。いろんな人と接する機会が増え、こちらが手間取ってお客様を怒らせてしまったりして、すごく悩んだ時期もありました。レジの扱い方を教えてもらっても、処理するのに時間がかかるので、メモを取って、何回も確認して。家でもちょっと泣きながらメモを見返したり。わからないところは、先輩や店長に何度も聞き直して覚えていきました。やっぱり困ったときには、自分でウンウン悩んでいるだけでなく、人に頼っていいし、一緒に解決すればいいんだなと思いました。

### 公立高校校長：[学校行事を通じた多様な他者との交流]

昔に比べると、外の方に高校の教育活動にかかわっていただく機会が増えました。校長である私自身も地域の企業団体や近隣の大学と連携しながら、大学院生の協力を得た授業も実施しています。院生は、生徒が自らテーマを決めて作成している課題研究のサポートをしてくれています。大学院生は、科学的根拠は何か、どういった切り口で考えればよいのかという専門知識の提供はもちろんのこと、生徒にとっては比較的年齢も近いことから、「自分もそこまでやれる、できるかもしれない」と思える身近なロールモデルになっているようです。

# 05

## 4月の基礎力 ⊗ 学習習慣

### 高校時代の「学習習慣」は、 大学入学後の自主学習行動と計画立案力に影響する

**中** 学・高校までと比べ、履修計画の作成、課題レポートの提出など、自主的に学習を進めて行く必要のある大学では、学習習慣・学ぶスキルの獲得も適応に欠かせない要素であると考えられます。先行研究（矢野,2009）では、大学時代の学習習慣が社会人になってからの学習習慣へと引き継がれ、知識・能力の向上が所得の向上に結びついているという事実を説明しており、将来にわたって影響を与えることもわかっています。そこで今回の調査では、高校時代の学習習慣と大学入学後の学習習慣、および基礎力との関係を確認しました。結果、高校時代の学習習慣は、大学入学後の“自主学習の長さ”に影響が見られ、基礎力では“計画立案力”に影響を与えていることが示されました。つまり、社会人になってからの学習習慣は、高校時代の学習習慣が大学時代の学習習慣に影響した結果であると考えられます。高校時代に、“学習習慣を獲得するための方法”や“自分に向いている学び方を知る経験”をする機会を意図的に設ける必要があることを示唆する結果となりました。

**【高校】学習習慣** → 計画立案力+自主的な学習

#### 高校時代の「学習習慣」が大学生活に与える影響

大学での「自主的な学習」に影響する事柄

			標準化係数 β	
属性	性別	女性(男性基準)	-0.08	
		上・やや上のほう(真ん中基準)	.01	
	中学成績	下・やや下のほう(真ん中基準)	-0.18	
高校	授業に対する取り組みの熱心度	.33	+	

大学での「計画立案力」に影響する事柄

			標準化係数 β	
属性	性別	女性(男性基準)	-0.20	
		上・やや上のほう(真ん中基準)	.15	
	中学成績	下・やや下のほう(真ん中基準)	.02	
高校	授業に対する取り組みの熱心度	.33	+	

#### 大学1年生：[授業を通じた自主的な学習]

保健体育の授業ですが、個人で何かテーマをひとつ決めて、それについて調べて、自分で資料を用意して、パワーポイントなどを使って発表するという授業がありました。テーマは先生が用意してくれた候補がいくつかあって、そのなかから選ぶのですが、今まで興味や関心がなかったことでも、調べていくうちに発見があって。みんながそれぞれ別のテーマなので、何通りもの知識を取り入れることができました。自分大人になってから役立つ知識だとわかったからこそ、自分で調べようと思いました。

#### 公立高校教員：[受験指導を通じた学習習慣の獲得]

生徒にとって「受験」は、期限が切られて結果が分かりやすい「プロジェクト」です。そして、この「プロジェクト」をうまくこなすためには、学習も含めた、生活時間の管理ができていなければなりません。高校生はとても忙しく、部活に勉強、進路も考えて行事にも取り組むといったマルチタスクの状態が続いています。忙しい中でも、短期・長期の目標を並行して進められる生徒は、計画性を持って動いている子たちです。「受験」も、自分で立てた計画をマネジメントする術を学ぶ機会なので、近視眼的な生徒には、少し長期的な将来のことに目を向けさせるなどしながら、自分でバランスがとれるような指導をしています。

# 06

## 7月の基礎力の伸び ⊗ 注力していた取り組み

### 入学後3ヵ月間の「統率力の伸び」には、 学校行事や部活動経験、社会人との交流・留学が有効

**先** 行研究(濱名,2005)では、大学入学後の経験が対人基礎力の変化に影響することはほとんどないとされています。そこで本調査では、大学入学後に対人基礎力を変化させる要因として中学・高校時代の経験に着目し、その影響を詳細に調べました。結果、「統率力の伸び」について一部は、中高の経験で説明できることがわかりました。中学時代に「学校行事」や「部活動」に注力したことはプラスに、「恋愛経験」や「SNS」への注力はマイナスに。高校時代に「社会人との交流」や「留学・留学準備」に注力したことはプラスに影響することが示されています。注意したいのは、学校行事や部活動への注力は、中学段階では有効であるにもかかわらず、高校で注力しても統率力の伸びを後押しするとは言い難いこと。同様に、社会人との交流や留学・留学準備といった経験は、高校段階では効果的であるのに、中学段階では影響がみられません。“経験にはその経験をすべき必要な時期がある”ということが示唆されているといえます。

【中学】学校行事・部活動 【高校】社会人との交流・留学 → 統率力の伸び

#### 対人基礎力の伸びに影響する、中学・高校時代に注力していた取り組み

		対人基礎力			
		親和力	協働力	統率力	
モデルの分散分析の有意性		×	×	○	
属性	性別				
	住居			—	
	入試形態	AO入試(一般入試基準)			
		指定校推薦(一般入試基準)			
		公募推薦(一般入試基準)			
		その他(一般入試基準)			—
	(大学の)志望順位	第二希望(第一希望基準)			
		その他(第一希望基準)			
	高校種別	男子校または女子校(共学基準)			—
		中高一貫校(共学基準)			
	中学成績	上・やや上のほう(真ん中基準)			
下・やや下のほう(真ん中基準)					
中学注力した取り組み	1)教科の学習				
	2)文化祭や体育祭などの学校行事			+	
	3)部活動			+	
	4)リーダー経験				
	5)家の手伝い				
	6)恋愛経験			—	
	7)友人と遊びに行く				
	8)社会人との交流				
	9)職場体験				
	10)高校受験				
	11)留学・留学準備				
	12)SNS			—	
高校注力した取り組み	1)教科の学習				
	2)文化祭や体育祭などの学校行事				
	3)部活動				
	4)リーダー経験				
	5)アルバイト				
	6)恋愛経験				
	7)友人と遊びに行く				
	8)社会人との交流			+	
	9)インターンシップなどの就業体験				
	10)大学受験				
	11)留学・留学準備			+	

※表中の「+」は大学入学時のそれぞれの基礎力にポジティブな影響が、「-」はネガティブな影響が確認された項目

#### 大学1年生：[アルバイトを通じた社会人との交流]

高校時代に接客のアルバイトを経験して初めて、幅広い年代のお客さまと会話をする経験をしました。私の話を聞いて、意見を言ってくださることが多かったのですが、同年代とは違う大人の考えを得ることができたと思います。バイトは今も続けていて、親には言えないことも話せるし、大学や就活の情報ももらったりもしています。大学では、グループ活動などの時、「自分が何が言わないと始まらない」という正義感みたいなのが出来てきて、発表では自分から発言するようになりました。

#### 公立高校教員：[小さなプロジェクト単位でのリーダー経験]

高校時代よりも自由な大学環境の中で統率力が伸びるというのは、仲間を集めることができる、自分の周りに起こる出来事を俯瞰できているということではないかと思う。「こうあるべき」という一般論や自分の主張とは違う考え方に触れる機会を高校時代に持つことは非常に大切なこと。また、高校時代にリーダー経験をしていると、仲間から意見を聞かれる機会も増え、聞かれるから考えるということもあるのだろうと思います。うちの学校では役割が固定化しないように、教科の中でも小さなプロジェクトを作り、リーダー経験の機会を増やしています。

7月の基礎力の伸び

# 07

## 7月の基礎力の伸び ⊗ 経験からの学び

### 相手の気持ちを察したり、衝突を解決したりした「経験からの学び」は、協働力の伸びに影響する

大 学入学後の3ヵ月、4月から7月のあいだの「協働力の伸び」にプラスの影響がみられたのは、中学時代に「社会の出来事に関心を持つ」「将来やりたい仕事分野やテーマの発見」などの「考える力」を、高校時代に「相手の気持ちを察する」「協調性」「衝突の解決」などの「チームワークスキル」を、経験からの学びとして獲得したことでした。中学時代の経験を通じて「考える力」獲得しておく、その後の高校生活や大学生活のなかでも、自分の将来や社会に向かいながら、他者と協働するスキルを向上させてゆける可能性があることを示唆していると言えるでしょう。また、高校時代に友人との衝突の解決や、他者の気持ちを察する経験機会を持つことは、大学入学後のスタートアップ時期に、新しい人間関係のなかで協働力を発揮したり、伸ばしたりするために有効です。

【中学】考える力 【高校】 チームワークスキル → 協働力の伸び

#### 対人基礎力の伸びに影響する、中学・高校時代の経験からの学び

		対人基礎力		
		親和力	協働力	統率力
モデルの分散分析の有意性		×	○	×
属性	性別	女性(男性基準)		
	住居	実家以外(実家基準)		
		AO入試(一般入試基準)		
	入試形態	指定校推薦(一般入試基準)		
		公募推薦(一般入試基準)		
		その他(一般入試基準)	—	
	(大学の)志望順位	第二希望(第一希望基準)		
		その他(第一希望基準)		
	高校種別	男子校または女子校(共学基準)	+	
		中高一貫校(共学基準)		
中学成績	上・やや上のほう(真ん中基準)			
	下・やや下のほう(真ん中基準)			
中学 経験からの学び	第1因子	考える力	+	
	第2因子	チームワーク	—	
	第3因子	人との関係		
高校 経験からの学び	第1因子	考える力		
	第2因子	チームワークスキル	+	
	第3因子	やりぬく習慣		

※表中の「+」は大学入学時のそれぞれの基礎力にポジティブな影響が、「-」はネガティブな影響が確認された項目

#### 大学1年生：[部活動を通じたチームワークスキルの獲得]

3年間サッカーをしていました。仲間と一つの目標に向かって努力したり、協力したり、挫折もあったり。そんななかで、お互いの意見をどうしたらちゃんと伝えられるのかをすごく考えました。例えば、「ポジショニングをこうしたら」とかそういうことなのですが、それぞれ感情があるので、言い方によってテンション下がってしまうこともあるので。大学でも、友達との信頼関係とか、自分の伝えたいことを伝えるという部分で、初めて知り合った人にもその人に合った言葉に砕けたり、時間かけて伝えたりというのを考えています。

#### 公立高校教員：[授業のなかでのチームワークスキルの獲得]

うちの学校では、協働力は日常的な学習の中で身につけさせたいと考えています。2年前から英語でのディベートの時間をはじめていますが、他の教科でも自分の意見を主張すること、協働することを日常的に体験させています。国語では、『羅生門』などの小説教材学習後に主題について班討議、地歴公民では、問題演習を行う際に論述問題に取り組みせ、生徒らの回答を使用しながら全体で検討をおこなっています。数学や理科では、わからない時の教えあいを、また生徒自身による問題解説を実施。保険体育では、生徒に各種ゲームの企画や運営を任せ、グループ学習の班人数を課題に応じて柔軟に変化させています。

# Appendix.

## 調査の枠組み

アンケート調査項目は、以下の枠組みで項目を作成した。

変数		大学について	高校について	中学について
主観的変数	充実度	・大学生生活充実度 ・退学意向	・高校生活充実度	・中学生生活充実度
	興味・態度	・注力した取り組み ・授業への取り組み態度	・注力した取り組み ・授業への取り組み態度	・注力した取り組み ・授業への取り組み態度
	内的経験 (経験からの学び)	—	・高校時代の経験から学んだこと	・中学時代の経験から学んだこと
客観的変数	学習習慣	・学習時間	・学習時間	・学習時間
	経験機会	・大学初年次での経験	・年齢や国籍の違う他者との交流経験	・年齢や国籍の違う他者との交流経験
	知識・能力	・生活スキル尺度(基礎力)	—	・中学3年生の成績
属性		性別/住居環境(同居・1人暮らし)/大学の入試形態/大学志望順位/中退経験/高校種別(共学か、中高一貫か)		

## 基礎力と生活スキル尺度の測度

基礎力の評価には、「大学生の日常生活スキル尺度」島本好平・石井源信(2006)を使用した。

基礎力		生活スキル尺度	
対人基礎力	親和力	親和性	1)困ったときに友人らに気軽に相談することができる 2)親身になって友人らに相談に乗ってもらえることができる 3)どんな内容のことで友人らと本音で話し合えることができる
	協働力	感受性	10)困っている人を見ると援助をしてあげたいくなる 11)他人の幸せを自分のことのように感じることができる 12)悲しくて泣いている人を見ると、自分も悲しい気持ちになる
	統率力	リーダーシップ	4)話し合いのときにみんなの意見をひとつにまとめることができる 5)集団で活動するときに先頭に立ってみんなを引っ張って行くことができる 6)自分が行動を起こすことによって、周りの人を動かすことができる
対課題基礎力	課題発見力	情報要約力	13)手に入れた情報を使って、より価値の高いもの(資料等)を生み出せる 14)数多くの情報の中から、本当に自分に必要な情報を手に入れられる 15)多くの情報を元に自分の考えをまとめることができる
	計画立案力	計画性	7)先を見通して計画を立てることができる 8)課題が出ると、提出期限を自ら決める等の工夫をしてやる気を引き出す 9)やるべきことをテキパキと片付けることができる
対自己基礎力	自信創出力① (前向きな思考)	前向きな思考	19)嫌なことがあっても、いつまでもくよくよと考えない 20)困ったときでも「なんとかなるだろう」と楽観的に考えることができる
	自信創出力② (自尊心)	自尊心	16)自分のことが好きである 17)今までの自分の人生に満足している 18)自分の言動に対して自信を持っている

## 経験からの学び 調査項目と因子との対応について

“中学時代・高校時代の経験を通じて何を学んだか（経験からの学び）”について、19の選択肢の中から回答してもらった。その結果、“経験からの学び”は、中学・高校それぞれ3因子構造であり、中学時代の経験からの学びは、「考える力」「チームワーク」「人との関係」で構成され、高校時代の経験からの学びは、「考える力」「チームワークスキル」「やりぬく習慣」で構成されることが示された。各選択肢と、因子の対応は以下の通り。

### 中学時代の経験を通じて学んだことと因子名称の対応

因子名称	選択肢（Q中学時代の経験から学んだことは何ですか）
考える力	物事の本質を捉える力
	既成の概念にとらわれず、自分の頭で考える力
	自ら機会を作らないと得るものが少ないことへの気づき
	つまずいた時に自分なりのやり方で解決していく方法
	社会の出来事に関心を持つこと
	将来やりたい仕事の分野やテーマの発見
	自分の意見を持つこと
チームワーク	協調性やチームワーク力
	精神的なタフさ、精神力
	対人コミュニケーション力
	継続的に努力する習慣
	失敗や困難な体験から学ぶスキル
	集団で物事を進める基本的なスキル
	自分に対する自信
人との関係	一生続くであろう友人
	相手の気持ちを察する力
	人との衝突を解決する力
	自分の意見を主張する力
	困った時に人に頼ることができる

### 高校時代の経験を通じて学んだことと因子名称の対応

因子名称	選択肢（Q高校時代の経験から学んだことは何ですか）
考える力	物事の本質を捉える力
	既成の概念にとらわれず、自分の頭で考える力
	自ら機会を作らないと得るものが少ないことへの気づき
	つまずいた時に自分なりのやり方で解決していく方法
	社会の出来事に関心を持つこと
	将来やりたい仕事の分野やテーマの発見
	自分の意見を持つこと
	自分の意見を主張する力
チームワークスキル	協調性やチームワーク力
	対人コミュニケーション力
	一生続くであろう友人
	相手の気持ちを察する力
	人との衝突を解決する力
	困った時に人に頼ることができる
やりぬく習慣	精神的なタフさ、精神力
	継続的に努力する習慣
	失敗や困難な体験から学ぶスキル
	集団で物事を進める基本的なスキル
	自分に対する自信

### 参考文献

島本好平・石井源信（2006）、大学生における日常生活スキル尺度の開発、教育心理学研究、54、pp211-221  
 矢野真和（2009）、「教育と労働と社会—教育効果の視点から」、『日本労働研究雑誌』、pp.5-15  
 濱名篤（2005）、「新入生の適応と不適応はどのような経験から生まれるか～学習面と対人関係を中心に」大学教育誌第27巻第1号、2005年5月、pp.31-36

# Works Report 2016

大学入学段階の基礎力に影響する  
中学・高校時代の経験

リクルートワークス研究所

〒100-6640 東京都千代田区丸の内 1-9-2  
グラントウキョウサウスタワー  
株式会社リクルートホールディングス  
TEL 03-6835-9200  
URL [www.works-i.com/](http://www.works-i.com/)

発行日 2016年3月31日

調査・分析 辰巳哲子 (リクルートワークス研究所 主任研究員)  
田窪正則 (ヒストリカルデザイン株式会社)

アシスタント 森千恵子 (リクルートワークス研究所)

編集 鹿庭由紀子

デザイン 鈴野麻衣

本誌掲載記事の無断転載を禁じます。

©Recruit Holdings Co.,Ltd. All rights reserved.